

ヘルパンギーナ

- ①発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とした夏季に流行する乳幼児の急性ウイルス性感染症です。
- ②感染してから2～4日後に、突然の38～40℃の高熱と口の中に1～3mmの水疱性発疹が出ます。
- ③発熱は1～3日間続き全身倦怠感、食欲不振、咽頭痛、嘔吐、四肢痛などがある場合もある。
- ④発熱時に熱性けいれんを伴うことや、口腔内の疼痛のため不機嫌、拒食、哺乳障害、それによる脱水症などを呈することがあるが、ほとんどは予後良好である。
- ⑤ヘルパンギーナに特效薬はなく、特別な治療方法はありません。また、基本的には軽い症状の病気ですから、経過観察を含め、症状に応じた治療となります。
- ⑥まれに髄膜炎や脳炎などが起こる場合がありますから、経過観察をしっかりと行い、高熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、水分が取れずにおしっこがでない、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。
- ⑦感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染することです）が知られています。特に、この病気にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。家に帰ってきたら、手洗い・うがいを徹底しましょう。
- ⑧目黒区の保育園では診断がついて、発熱や口の中の水疱・潰瘍の影響がなく、通常の食事がとれるようになるまで登園を控えることになっています。